

## ● キーワード

### ・ 境界線

- 人與人
- 空気、ウイルス、社会

### ・ 窮屈感

- 身動きが取れない感じ
- 社会体制というよりも自分自身
- 気持ちが小さくなってしまふ。誰かに向けてではないいらいら（例：マスクをしていない、捨てられているマスクを犬が噛んで不安など）→行動制限のせい？
- 根拠がわからないまま従っている（鵜呑みにするしかない、主体性を感じられない）
- 自分が判断できないことに流されてきている。→人間関係などにも影響するように

### ・ おたがいさま

- 今までの「私もなるから」のような「おたがいさま」とは違う
- 人の命がかかる・気にかけていけない
- =正当化
- （本来）立ち位置の違い
- 違いを許せない社会
- ・ 身体的に境界線をわける
- 社会を可能にするために
- ・ 社会に対する脅威
- 社会（公衆）のために自分を差し出す（国家という視点とは違う）
- ・ 立場を交換できる
- ・ 自然災害：受け止める、人災：人を責める（怒りの矛先）
- ・ 日常でお互い迷惑を掛け合うニュアンスだった。今は非日常。おたがいさまのニュアンス？短いスパン。免責？攻撃？
- 言葉のあや

## ● キーワードから問いを作る。

（例：「～とは？」「～は・・・だろうか？」）

### ★ おたがいさま

- ・ 「おたがいさま」は免責か攻撃か？
- 言葉のあや
- ・ 「おたがいさま」と声を掛けにくいのはなぜか
- 加害被害の対立構造、同じ経験の可能だという余裕がない。
- 休む事に対するハードル+コロナ：迷惑をかける事に関する過剰な感覚。攻撃。
- 会社休むより出てくる方が問題
- おたがいさま：運命共同体のニュアンス
- ・ 「おたがいさま」の言葉の受け止め方がなぜ異なるのか
- 緊張感とく
- 新しい生活様式を守れというような強いメッセージ